



科研製薬株式会社

2018年3月期決算

IR ミーティング

2018年5月10日

- **本説明資料に記載されている業績予想等は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。**
- **新薬が発売されるまでには、多額の資金と長い開発期間が必要となります。有効性と安全性を確認しながら慎重に開発を進めていくうちには、開発中止となる可能性があります。**
- **「開発テーマの状況」は、現時点の開発計画に基づいて作成しております。開発計画の進行に伴い、変更等が発生する可能性があります。**

2018年3月期決算のポイント

- 爪白癬治療剤クレナフィンの売上は堅調
- 全体では減収(▲3%)・減益
 - 減収要因:競合品・ジェネリック医薬品の影響、海外Jublia関連売上
 - 減益要因:研究開発費増加など
- 配当は150円を維持、自己株式も取得(55万株)

～トピックス～

- 爪白癬治療剤「クレナフィン」を台湾の台田薬品に導出
- 導出先の東亜STが韓国で「クレナフィン(韓国での販売名:Jublia)」を発売
- 新規抗体医薬の創製に向けてNumab Therapeutics AGと共同研究
- 新規化合物「KP-470」をカナダのValeant社に導出

2018年3月期損益実績(連結)

(百万円未満切捨)	2017年 3月期	2018年 3月期	増減	前期比 (%)	2018年 3月期 計画※	対計画比 (%)
売上高	101,479	98,430	▲ 3,049	97.0	101,700	96.8
売上原価	44,027	42,403	▲ 1,623	96.3	43,700	97.0
販売費及び一般管理費	26,745	28,530	1,785	106.7	31,200	91.4
研究開発費	6,450	8,152	1,702	126.4	10,900	74.8
営業利益	30,707	27,496	▲ 3,211	89.5	26,800	102.6
経常利益	30,981	27,854	▲ 3,126	89.9	27,000	103.2
税引前当期利益	31,092	27,686	▲ 3,406	89.0	27,000	102.5
当期純利益	22,017	19,043	▲ 2,974	86.5	19,100	99.7

(※ 2018年3月期の期初計画:2017年5月10日公表)

売上内訳(連結)

(百万円未満切捨)	2017年 3月期	2018年 3月期	増減	前期比 (%)
医療用医薬品・医療機器	85,404	82,560	▲ 2,844	96.7
農業薬品	5,629	5,639	10	100.2
不動産賃貸料	2,386	2,407	21	100.9
その他	8,059	7,823	▲ 235	97.1
合計	101,479	98,430	▲ 3,049	97.0

主な医薬品・医療機器の売上実績内訳

(百万円未満切捨)	2017年 3月期	2018年 3月期	前期比 (%)
アルツ	28,978	28,351	97.8
クレナフィン	21,624	22,185	102.6
セプラフィルム	11,036	10,162	92.1
リピディル	4,430	4,208	95.0
フィブラストスプレー	3,700	3,616	97.7
ジェネリック医薬品	11,903	11,793	99.1

アルツ：治療の多様化等により横ばい

クレナフィン：潜在的な患者さんへの疾患啓発活動に注力

セプラフィルム：新たな競合品が市場に参入

連結貸借対照表／連結キャッシュ・フロー計算書

連結貸借対照表

(単位:百万円未満切捨)

	2017年 3月期末	2018年 3月期末	増減
流動資産	90,494	105,055	14,560
固定資産	44,565	47,362	2,796
資産合計	135,060	152,417	17,357
流動負債	24,020	31,401	7,380
固定負債	8,384	7,141	▲1,242
負債合計	32,405	38,543	6,137
純資産合計	102,655	113,874	11,219

【主な変動科目】

- ◆ 資産
現金及び現金同等物: 52,694百万円
(+8,927百万円)
- ◆ 負債
有利子負債: 3,875百万円 (±0)
- ◆ 純資産
利益剰余金: 97,284百万円 (+12,953百万円)
自己株式: ▲23,259百万円 (▲3,445百万円)

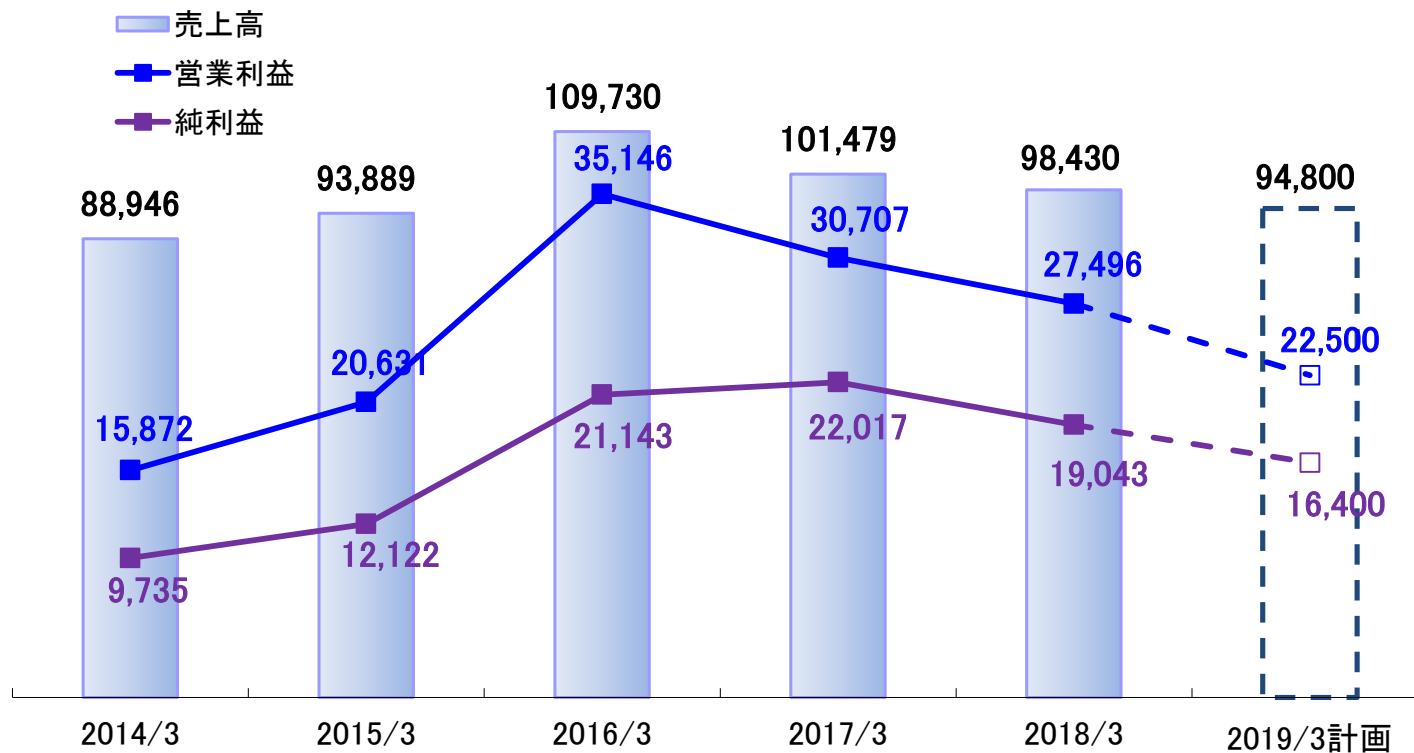
連結キャッシュ・フロー計算書

	2017年 3月期末	2018年 3月期末	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	15,327	21,703	6,375
投資活動による キャッシュ・フロー	▲3,503	▲3,245	258
財務活動による キャッシュ・フロー	▲9,800	▲9,530	270
現金及び現金同等 物の期末残高	43,767	52,694	8,927

【主な要因】

- ◆ 営業活動によるキャッシュ・フロー
税金等調整前当期純利益: 27,686百万円
- ◆ 投資活動によるキャッシュ・フロー
有形固定資産の取得: 1,689百万円
- ◆ 財務活動によるキャッシュ・フロー
配当金支払額: 6,085百万円

業績推移(連結)



	2014/3	2015/3	2016/3	2017/3	2018/3	2019/3
年間配当	96円	118円	146円	150円	150円	150円(予定)
自己資本利益率 (ROE)	14.5%	16.7%	25.3%	22.9%	17.6%	—

※2015年10月1日付で株式併合(2株を1株に併合)を実施しております。
 年間配当は、株式併合後の基準で換算した金額を記載しております。

開発テーマの状況

開発コード	予定適応症	開発段階	備考
BBI-4000	原発性局所多汗症	PⅢ	ブリッセル・バイオテック社より導入 外用抗コリン剤
KMW-1	熱傷焼痂除去	PⅢ準備中	メディウンド社より導入 外用酵素製剤 海外での製品名:NexoBrid
KAG-308	潰瘍性大腸炎	PⅡ	旭硝子株式会社と共同開発 経口プロスタグランジン製剤
KP-607	爪真菌症	PⅠ	自社創薬 ポスト クレナフィン

2019年3月期損益計画(連結)

(百万円未満切捨)	2018年 3月期	2019年 3月期 計画	増減	前期比 (%)
売上高	98,430	94,800	▲ 3,630	96.3
営業利益	27,496	22,500	▲ 4,996	81.8
経常利益	27,854	22,800	▲ 5,054	81.9
税引前当期利益	27,686	22,700	▲ 4,986	82.0
当期純利益	19,043	16,400	▲ 2,643	86.1
販売費及び一般管理費	28,530	31,400	2,870	110.1
うち、研究開発費	8,152	11,700	3,548	143.5

中期経営計画2018 数値目標の変更 【売上高:1,100億円 → 948億円】

～見直し要因～

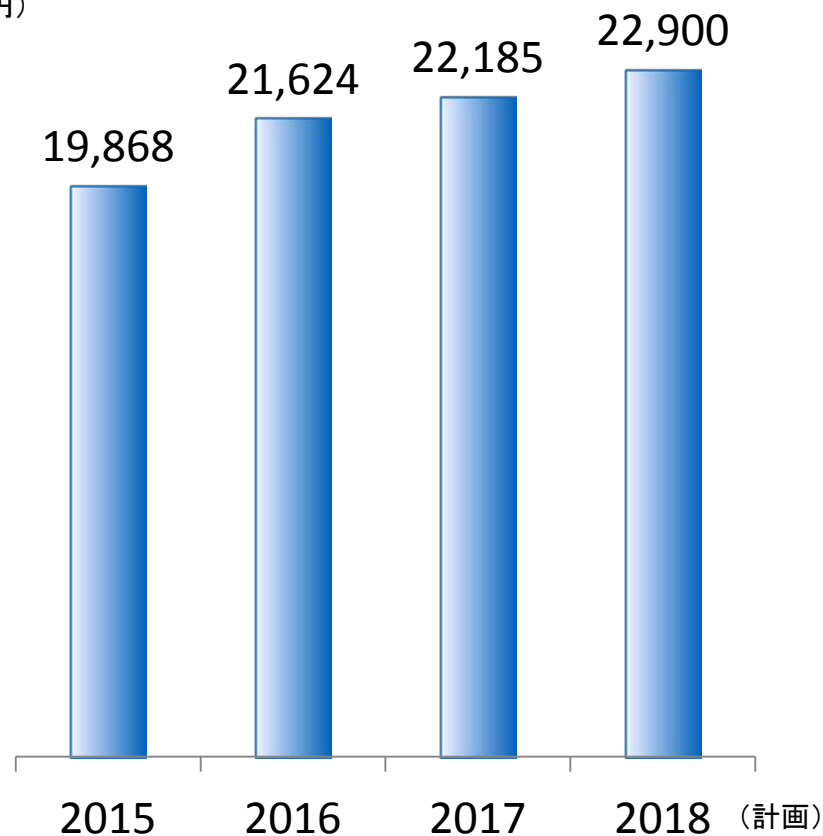
- ・競合品との競争激化(クレナフィン・セプラフィルム): ▲約100億円
- ・薬価改定、ジェネリック医薬品の影響(アルツほか長期収載品)
- ・米国Jublia関連売上の減少

主な医薬品・医療機器の売上計画内訳

(百万円未満切捨)	2018年 3月期	2019年 3月期 計画	前期比 (%)
アルツ	28,351	24,800	87.5
クレナフィン	22,185	22,900	103.2
セプラフィルム	10,162	10,200	100.4
リピディル	4,208	2,900	68.9
フィブラストスプレー	3,616	3,100	85.7
ジェネリック医薬品	11,793	11,200	95.0

爪白癬治療剤 クレナフィン

売上高
(百万円)



2018年度計画:前期比 103.2%

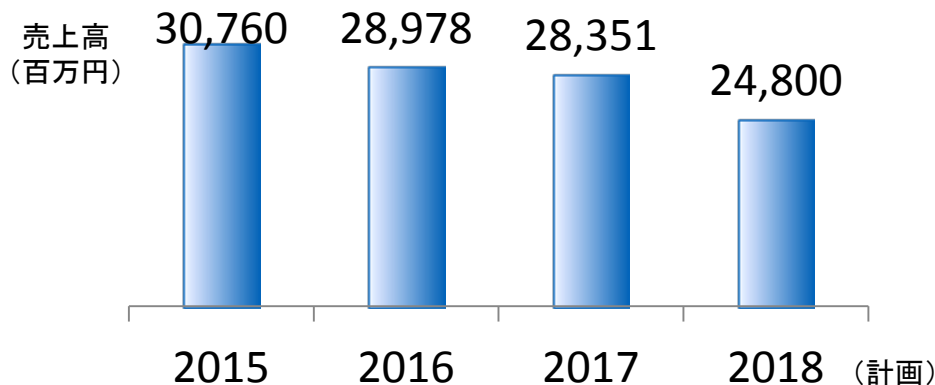
潜在的な患者さんへの処方により市場の拡大を目指す。

- 患者さんへの疾患啓発活動
(新聞広告、医療機関でのポスター掲示等を検討)
- 皮膚科Drへの情報提供活動を強化
(他剤との差別化にも注力)
- 他診療科のDrに対する疾患啓発活動
(皮膚科との診療連携を推奨)

国内医療用医薬品・医療機器

関節機能改善剤

アルツ

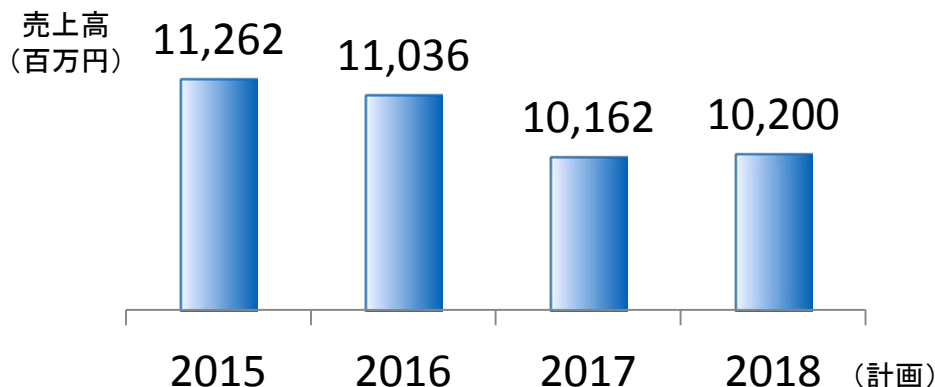


2018年度計画: 前期比 87.5%

薬価改定の影響を受けるも、発売から30年間で蓄積されたエビデンスや最新データの提供により、シェア拡大に向け注力

癒着防止吸収性バリア

セプラフィルム



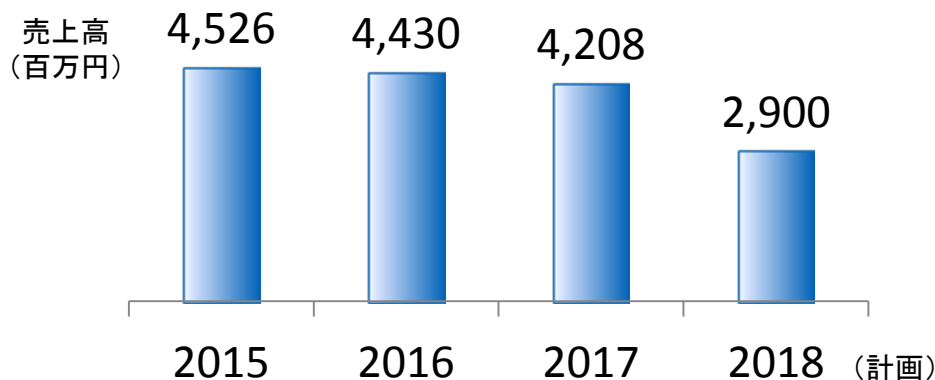
2018年度計画: 前期比 100.4%

競合品が参入することによる市場の活性化をチャンスととらえ、他材にはない多くのエビデンスにより、有用性の理解を進める

国内医療用医薬品・医療機器

高脂血症治療剤

リピディル

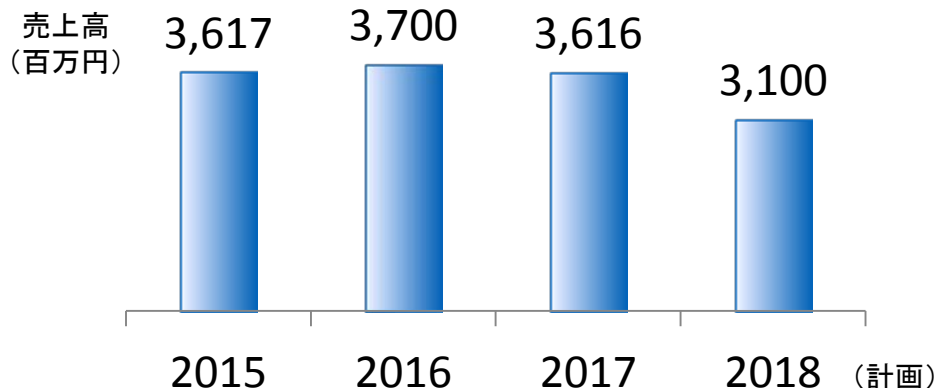


2018年度計画: 前期比 68.9%

ジェネリック医薬品の影響等が予想されるも、関連ガイドラインの活用等により、有用性の理解を更に進める

褥瘡・皮膚潰瘍治療剤

フィブラストスプレー



2018年度計画: 前期比 85.7%

薬価改定の影響を受けるも、創傷・褥瘡・熱傷ガイドラインの訴求等により更なる拡大を目指す

中期経営計画2018

将来を見据えた成長基盤の整備

【重点課題①】
パイプラインの充実

【重点課題②】
クレナフィン・新製品の価値最大化
既存製品の営業基盤強化と効率化

【重点課題③】
創造力豊かな人材の育成

～ 数値目標(変更)～
2018年度の連結売上高:948億円

重点課題①:パイプラインの充実

1. 創薬力の強化

- ・ 下記領域を中心とする当社の経験、技術、基盤を活用できるテーマに注力

炎症・アレルギー

真菌症

疼痛

周術期

- 爪真菌症向け外用剤「KP-607」の臨床試験開始
- 乾癬向け新規化合物「KP-470」の海外導出

- ・ 新たな研究テーマについても検討継続
- ・ 共同研究の裾野拡大

- スイスのNumab Therapeutics AG社と新規抗体医薬の創薬に向け共同研究を開始

2. 外部からの事業機会を有効活用

- ・ 当社プレゼンスの高い領域(整形外科・皮膚科)を中心に開発品を導入

- 「BBI-4000」がP IIIにステージアップ、「KMW-1」もP III準備中
- 複数品目について交渉中

重点課題②:クレナフィン・新製品の価値最大化 / 既存製品の営業基盤の強化・効率化

◆ 国内 ◆

1. クレナフィン

潜在患者に対する疾患啓発活動に注力



- 2018年3月期実績 22,185百万円(2016年3月期対比 111.7%)

2. 新製品

～ 歯周組織再生剤 リグロス ～



歯周病学会会員など歯周外科手術の経験豊富な医師へ情報提供

- 将来の成長に向け、納入医療機関が着実に増加

3. 既存製品

得意領域の基盤強化・効率化を進め、営業現場におけるプレゼンスを更に高める

営業支援システムの導入・営業組織再編により、情報提供の質・スピードの向上を図る

重点課題②:クレナフィン・新製品の価値最大化 / 既存製品の営業基盤の強化・効率化

◆ 海外 ◆

1. クレナフィン(Jublia)

① 北米市場

- Valeant社 皮膚科領域体制を強化(営業増員等)
- 当社との連携強化(ハイレベルな包括的協議を継続して実施)

② 自社テリトリー

- 韓国: 導出先の東亜ST社が2017年6月に発売、その後順調に推移
- 台湾: 台田薬品(田辺三菱製薬子会社)に導出
- 香港・マカオ: 導出候補先と契約交渉中
- 中国: 臨床試験の申請が当局により受理。並行して導出候補先と契約交渉中

③ 米国・カナダ以外のValeant社テリトリー

- 欧州・アジア地域等について販売開始に向けValeant社と検討・協議中。

2. リグロス・フィブラストスプレー

⇒ 海外展開を進めるべく、新たなパートナーの検討に着手